

< 別紙 >

## 第 10 回テーマ協議会の議事概要

### 1. 企業会計基準委員会（以下、「ASBJ」という）の活動報告

（報告）

- 石井 ASBJ 常勤委員より、ASBJ の活動状況として、テーマ協議会提言項目に関する事項、並びに、IASB との共同プロジェクト及び EU の同等性評価等に関する事項についての報告がなされた。

（委員等からの主な意見）

- EU の同等性評価への対応は、今後の日本にとって極めて重要であり、各方面の関係者が一緒になって考えていかなければならない問題である。
- 会計基準のコンバージェンスが進む中で、日本において、米国基準や国際会計基準が公正なる会計慣行として認められていくような方向での議論が可能かどうか。ただし、この問題を議論する際は、会計基準が拠っている制度及び会計基準に拠っている制度との調整が必要と考えられる。

### 2. 新規テーマ案に関する審議

- 伊藤委員より、山崎委員との連名で、「特別目的会社を利用した取引に係る会計基準等の整備」が新規テーマ案として提言された。提言の背景として、資産流動化法の改正等に伴う当該取引の拡大や複雑化・多様化により、既存の会計基準等の適用にあたっての解釈や判断に差異が生じている等の説明がなされた。また、短期的な検討課題として、開発型の特別目的会社の連結上の取扱い、会社に準ずる事業体に関する連結上の取扱いの具体的な判定方法及び特別目的会社への影響力基準の適用等が挙げられた一方で、中長期的な検討課題として、特別目的会社に関する連結上の取扱いの根本的な考え方の整理が必要との説明がなされた。

当該提言に関する審議においては、提言中の短期的な検討事項と中長期的な検討事項との関係について、複数の委員から意見があっが、本件については可能な限り早く着手すべきとの意見が大勢を占めた。詳細については、別添「第 10 回テーマ協議会提言書」ご参照。

## 3. その他

- 阿部委員より、(社)日本証券アナリスト協会が取りまとめ、平成17年10月27日に公表された、会計基準等に関する意識調査結果の紹介があった。当該調査は、同協会所属の検定会員を対象にした意識調査であり、財務データの主要なユーザーである証券アナリストを対象にした会計基準等についての体系的な調査としては、わが国では初めての試みであったとの説明がなされた。調査結果によれば、総じて、証券アナリストは会計基準・ディスクロージャーの改善を高く評価し、今後も一層の改善を要望していること、また、会計基準の国際的統一が条件付で支持されているとのことであった。
- 遠藤常務理事より、平成17年10月29日から11月5日に行われた、オーストラリアへの出張報告がなされた。今回の出張では、AASB (Australian Accounting Standards Board) や FRC (Financial Reporting Council) の Chairman 等との懇談が行われ、IFRS を採用 (Adopt) したオーストラリアの現状や今後の会計戦略等をテーマとした意見交換を行なったとのことであった。

以 上

## [ 当日の出席者 ]

- ・ テーマ協議委員 : 川北議長、阿部委員、伊藤委員、大日方委員、川口委員、川村委員、齋藤委員、佐藤委員、土本委員、八木委員、山本委員
- ・ オブザーバー : 金融庁 野村企業会計調整官
- ・ ASBJ / FASF : 西川 ASBJ 副委員長、石井 ASBJ 常勤委員、遠藤 FASF 常務理事